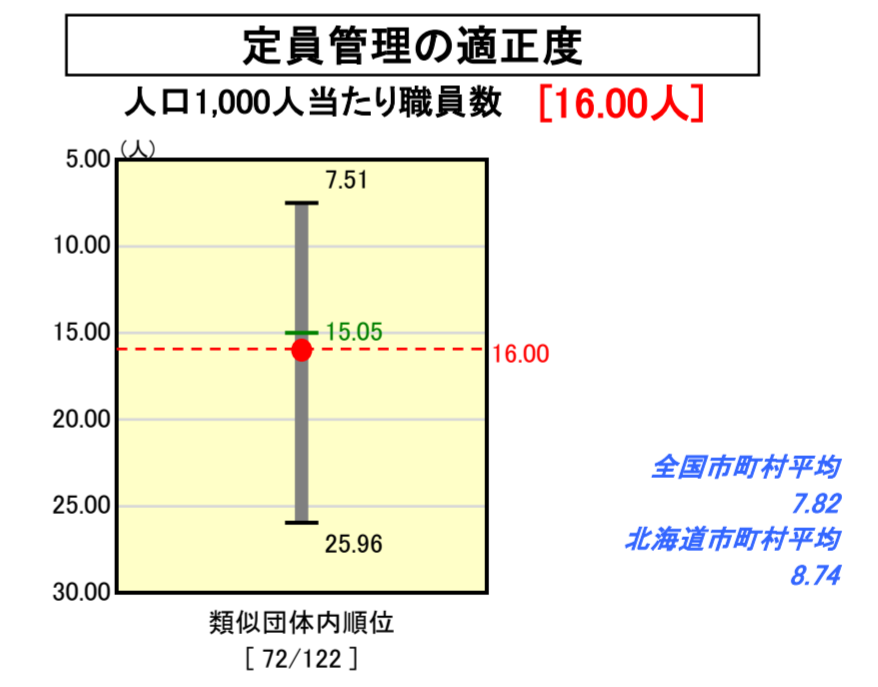
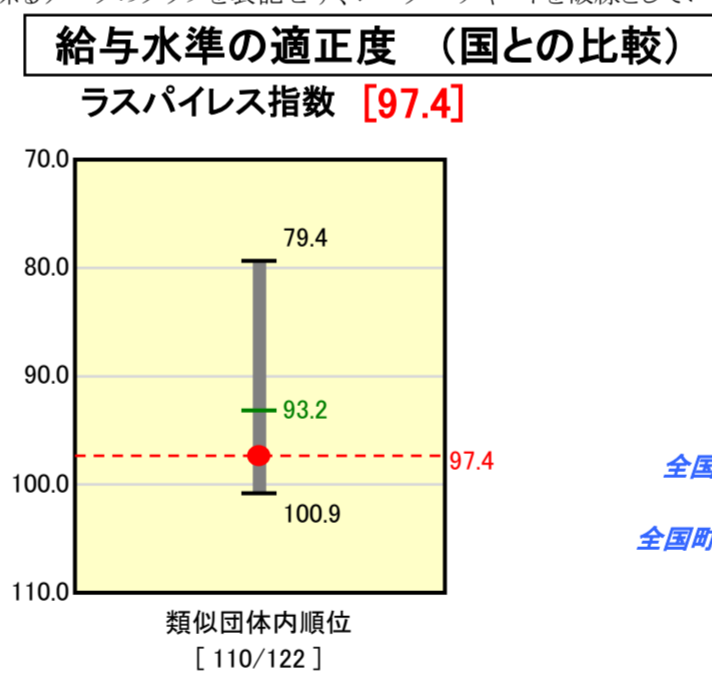
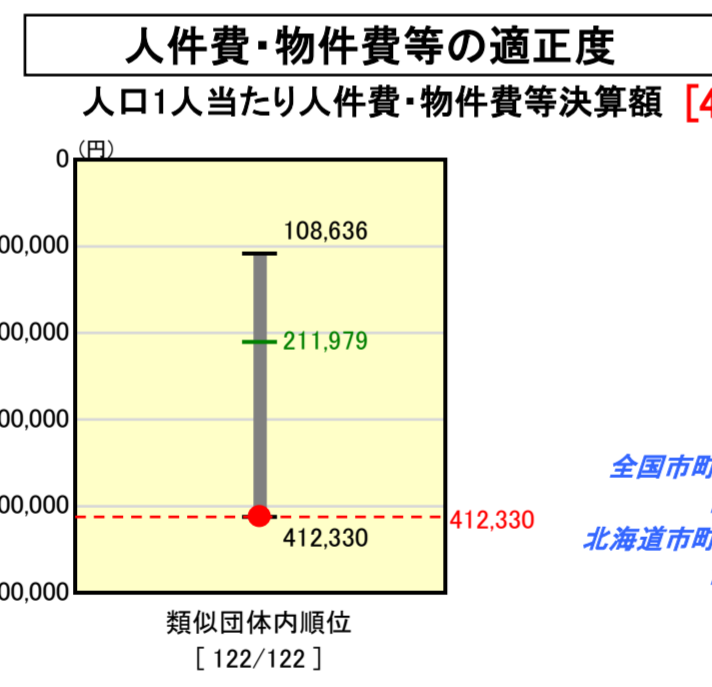
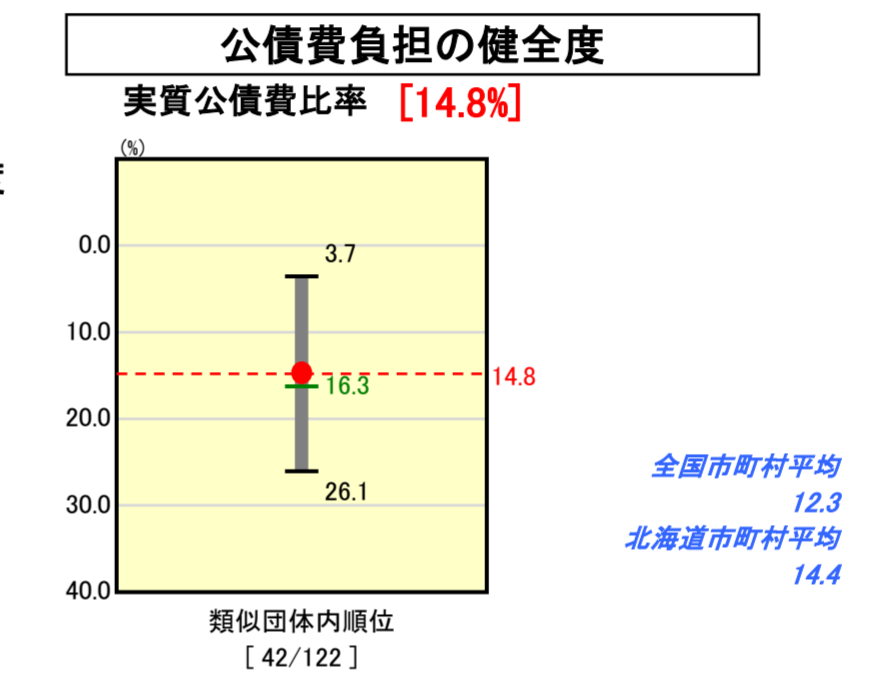
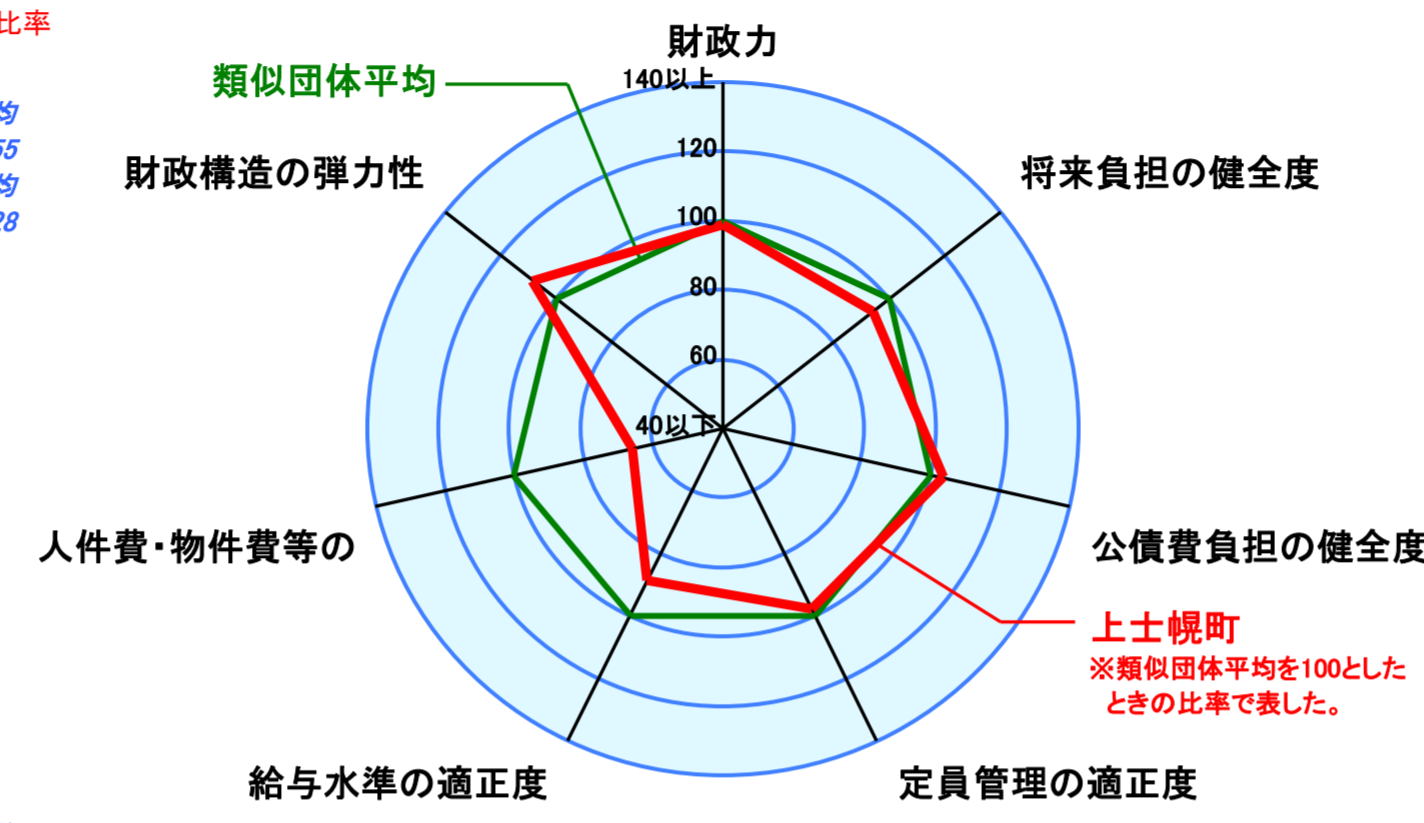
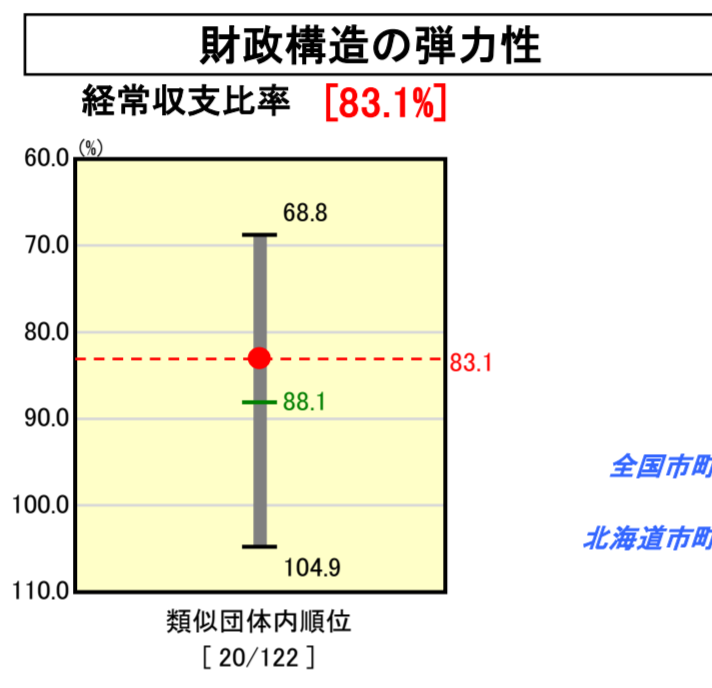
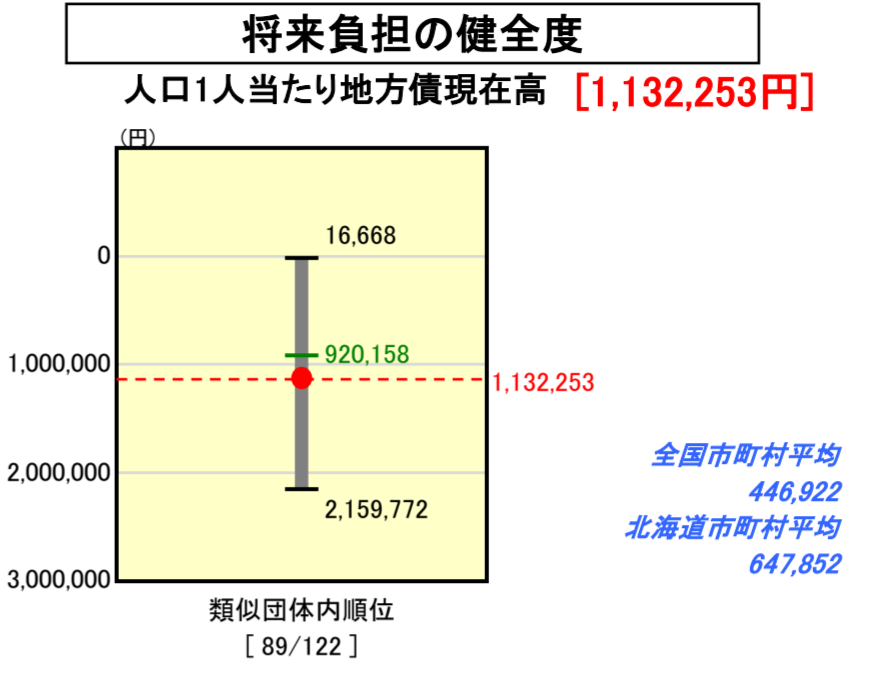
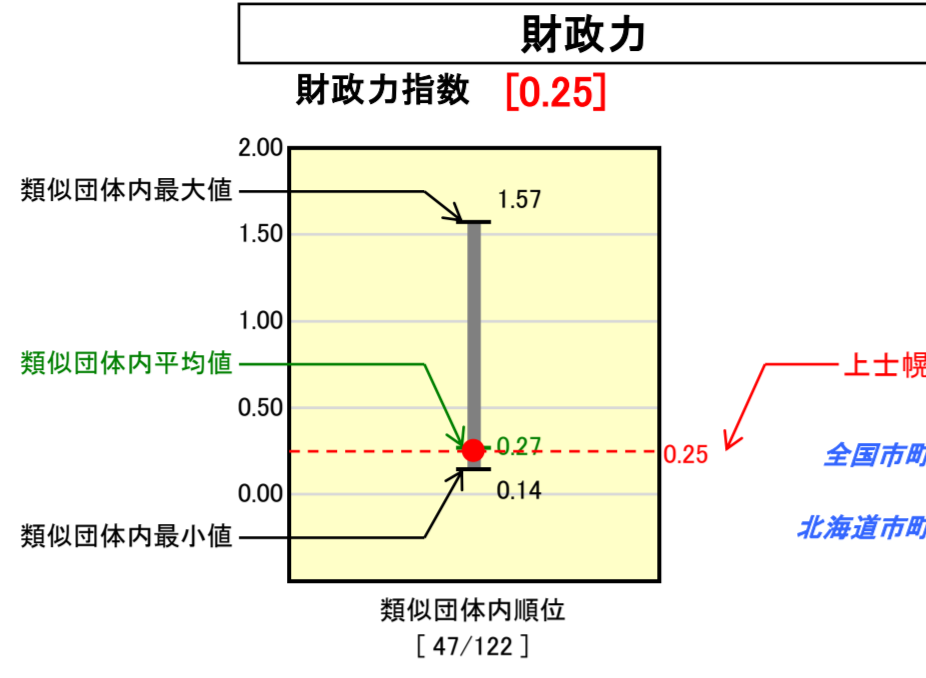


市町村財政比較分析表(平成19年度普通会計決算)

北海道 上士幌町

人口	5,314 人(H20.3.31現在)
面積	694.09 km ²
歳入総額	5,430,431 千円
歳出総額	5,303,510 千円



※類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。
 ※平成20年4月1日以降の市町村合併により消滅した団体で実質公債費比率を算定していない団体については、グラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。
 ※ラスパイレス指数及び人口1,000人当たり職員数については、平成19年地方公務員給与実態調査に基づくものである。なお、平成19年度中に市町村合併を行った団体については、当該項目に係るデータのグラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。

※人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

分析欄

財政力指数: 前年度と比較して指数は横ばいとなっているが、類似団体平均とほぼ同率の低い数値で推移しており、依然として財政力が弱い状況にある。地域住民との協働によるまちづくりを進め、少ない経費で効率的な行政運営をすることで、財政力の強化を図る。

経常収支比率: 個別の比率を見ると、人件費、扶助費などに関しては減少しているが、全体的には、経常的経費に充当する一般財源(分子)は微減となったが、国からの譲与税、交付金など経常一般財源(分母)の減少幅が大きく、比率は1.2ポイント上昇した。

類似団体平均を下回る比率で推移してきているが、今後も普通交付税の減額が続けば、比率が上昇することが懸念される。独自財源の確保が厳しいため、今後も引き続き、経費削減と行政運営の効率化を図り、比率上昇の抑制に努める。

ラスパイレス指数: 平成19年度より年功的な要素が強い給料構造から職務・職責に応じた給料とするため給料構造の見直しを実施している。今後においても、より一層の給与と職員数の適正化に努め人件費の抑制を図る。

実質公債費比率: 前年度対比0.7%減少し、類似団体平均を下回って推移している。地方債の元利償還は平成16年度をピークに減少しており、新規発行も抑制していることから今後も減少の傾向を予測している。

人口1人当たり地方債現在高: 地方債の新規発行を抑制していることから現在高は年々減少してきているが、過疎化の進行により人口の減少が著しいため、1人当たり現在高は類似団体平均を上回っている。

人口1,000人当たり職員数: 町の面積が広大であり、また町営牧場や博物館の運営等、本町固有の施策により類似団体平均を上回っているが、過去5年間で30名(26%)の減員が図られたところである。今後においても事務事業の見直しや住民との協働等を推進して業務の効率的な運用により、退職者の不補充や職員の効率的な配置により適切な定員管理に努める。

人口1人当たり人件費・物件費: 類似団体で最も高くなっているが、これは町営牧場の運営に係る物件費が主な要因である。町営牧場の運営に係る物件費は約5億3千万円(町民1人当たり約10万円)で前年度に比較して約6千万円(町民1人当たり約1万円)減少しているが、原油価格の上昇による飼料・肥料の高騰などの影響もあり、依然多額になっている。今後、運営方法の抜本的な見直しを行い、徹底したコスト削減に努める。なお、平成21年度に牧場使用料(預託料)の改定(増額)を実施し、収入確保も行うこととしている。また、その他人件費、物件費全般について、効率的な行政運営を行い、経費圧縮に努める。